



タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT1301		
科目名	危機管理学概論 I		
担当教員	福田 充		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	金 1		
講義室	1502	単位区分	必
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基幹		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP2-B[自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢] 自己の存在意義を知り、自らを高め続けようとする努力することができる。 DP7-C[他者理解・倫理観・公共心] 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP1-E[学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-F[探究力・課題解決力] 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP4-I[理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンレブリック（C R）との関連 A1 グローバル感覚－10% B1 自己啓発－10% C1 倫理的思考・社会認識－20% E1 学識と専門技能－30% F1 探求と論拠－10% I1 理解・分析と読解－20%		
教員の実務経験	2005年から内閣府内閣官房の「日本のテロ対策の在り方について委員会」などの委員として日本のテロ対策やミサイルなど国民保護体制の構築に関する実務に関与してきました。また2007年から埼玉県「危機・防災懇話会」委員として自治体行政における災害対策やテロ対策の構築のための実務に関与しました。その他にも政府や官庁、自治体の災害対策、テロ対策、国民保護などに関する委員会委員を歴任して、日本の危機管理体制の構築に関わってきました。現在も総務省消防庁ではテロ対策など国民保護についての懇話会で、厚生労働省では新型インフルエンザ委のパンデミックについての有識者会議や委員会、神奈川県国民保護情報ネットワークでは研究者メンバーとして、行政や自治体、ならびに企業など多様なステークホルダーと連携しながら日本の危機管理体制の構築に関与しています。こうした実務経験をもとに、講義を行います。（第3回、第4回、第5回、第6回、第7回、第8回、第9回、第10回、第11回、第12回、第13回、第14回）		
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 2 進期～ 3 発展期		

科目概要・キーワード	「危機管理学」とは極めて新しい学問領域であり、高度な専門性をもつ学問分野です。自然災害や大規模事故、テロ、国際紛争、サイバー攻撃、感染症のパンデミックなどの危機事態が発生した場合に、どのような危機管理の対応が必要となるか、危機管理のあり方について学ぶ危機管理学の入門的な科目です。 危機管理学を構成する①災害マネジメント領域、②パブリックセキュリティ領域、③グローバルセキュリティ領域、④情報セキュリティ領域を中心に、オールハザード・アプローチによる危機管理学の研究領域や研究方法について学びます。リスクマネジメントとクライシスマネジメントの両面から多様な危機をとらえ、それを法学的なアプローチから研究することの意義について考察し、リーガルマインドとリスクリテラシーの両面を身につけます。さまざまな危機の事例から具体的な事象について実践的な視点から学ぶと同時に、危機管理に関する理論や思想について理論的な視点から学ぶことにより、理論と実践の両面をバランスよく学びます。 授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 危機管理、リスクマネジメント、クライシスマネジメント、リスクリテラシー、リーガルマインド
授業の趣旨	■副題 オールハザード・アプローチにもとづく「危機管理学」の体系を理解し、「危機管理学」の理論と考え方を身につけましょう。 ■授業の目的 入学後のスタートラインにおいて、「危機管理学」を学ぶための入門編、導入編として、4年間で学ぶ「危機管理学」の全体像を把握するための学術的理論体系を理解し、個別具体的な危機管理の事例をもとに、理論と実践をバランスよく理解することを目的とします。 ■授業のポイント 危機管理学の基礎的素養と多角的視座を身につけます。危機管理学の対象となる社会問題を認識し、危機管理学の研究方法与アプローチについて理解を深めます。リスクリテラシーとリーガルマインドを涵養するための前提となる基礎的知識を身につけ、2年次以降のキャリア選択、領域選択のための判断に役立てます。危機管理に関する専門知識を身につけ、危機管理についての問題意識を深めることにより探求力を涵養し、危機管理についての問題解決について考えることにより、課題解決力を身につけます。
総合到達目標	■危機管理学に関わる基礎的な知識や概念を修得し、危機管理学部のカリキュラム全体を自力で理解でき、将来のキャリア形成や研究テーマに向けた各自の学習目標を計画できるようになる。 ・危機管理のための自己の社会的責任を知り、危機管理において自らを高めるために努力することができる。（第1回～第5回） ・危機管理における人間行動の在り方に正面から取り組み、社会的存在としてあるべき行動原理を獲得することができる。（第1回～第15回） ・危機管理の専門分野における理論知と実践知を獲得し利用することができる。（第1回～第15回） ・危機管理における課題を設定し、それに対する結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行い、対策をデザインし、検証し実行することができる。（第6回～第15回） ・文章、数値データを適切に扱い、情報収集と取捨選択、分析と加工を行い、課題解決につなげることができる。（第6回～第15回） ■その目標に向けた学習を意欲的かつ主体的に行う態度を身につけることができる。
成績評価方法	■授業内の課題レポート 1回 （10%） ：適用ルーブリック A1・I1 （評価の観点） 講義で展開した危機管理学の考え方について理論的かつ具体的にどれくらい理解できているか、理解度について評価します。 （フィードバックの方法） 授業内で解説を行います。 模範解答を授業内で紹介します。 ■リアクションペーパー 15回 （50%） ：適用ルーブリック B1・C1・F1 （評価の観点） それぞれの回の講義内容について、危機管理学の問題点をどのように理解し、その改善点のためにどのような対処法が必要か、理解力、発想力、論理性などを評価します。

	(フィードバックの方法) 授業内で解説を行います。 模範解答を授業内で紹介します。 ■期末レポート（40%）：適用ルーブリック A1・C1・E1・F1・I1 (評価の観点) 危機管理学に関するオールハザードアプローチのあり方について、学際的アプローチについての理解度、問題意識について評価し、2年次におけるカリキュラム上の領域選択やキャリアコース選択についての学修計画に対する意識や意欲について評価します。 (フィードバックの方法) 授業内で解説を行います。 模範解答をポータルで配布します。
--	---

履修条件	必修のため特にありません。
------	---------------

履修上の注意点	危機管理に興味関心を持ち、予習・復習を欠かさない学習態度をもって、授業に望んでほしいと思います。
---------	--

授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス（全体テーマ、授業の進め方、成績評価の方法の説明）、イントロダクション ②授業概要 授業のテーマや内容、スケジュール、評価方法について説明を行います。危機管理学を学ぶための心構え、学習方法や研究方法についても指導します。 担当教員の実務経験を踏まえて、危機管理における具体的事例を紹介しながら指導します。 教科書や参考書を指示し、ノートの取り方、学習の進め方についても説明します。 (A1、B1、C1) ③予習（120分） 教科書・福田充『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』（北樹出版）の序章を読む。 ④復習（120分） 講義で紹介した事例「平成30年西日本豪雨災害」について、危機管理上の問題を検討し、ノートにまとめる。
	2	①授業テーマ 危機とはなにか（危機の本質、危機の定義、危機の種類などの考察） ②授業概要 危機管理学を学ぶにあたって、最初に危機管理学の対象となる危機をどう定位するか、危機の諸相を具体的に提示し、危機管理学部が研究対象とする危機について説明します。危機にはリスク、クライシス、ハザードなど多様な概念が存在するため、それらの概念を整理しながら、危機に関する思想や理論について理解することを目的とします。 (A1、B1、C1、E1、F1、I1) ③予習（120分） 教科書『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』（北樹出版）の1章を読み、自然災害を中心に震災における危機について考察する。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、新聞記事やテレビニュースをみながら、危機管理学の対象となる現在の社会問題をについて調べてノートに整理する。
	3	①授業テーマ 危機管理の考え方（「オールハザード・アプローチ」） ②授業概要 日本大学危機管理学部が構想する危機管理学が対象とする危機事態は多様です。このように社会に存在する多様な危機事態を対象とした研究手法をオールハザード・アプローチといいます。そのオールハザード・アプローチに基づいた危機管理学が研究対象とする研究領域には、①災害マネジメント領域、②パブリックセキュリティ領域、③グローバルセキュリティ領域、④情報セキュリティ領域の4領域があります。これらの領域の構造とオールハザード・アプローチの意義について理解することを目標とします。担当教員の実務経験に基づいた講義を展開します。 (A1、B1、C1、E1、F1、I1) ③予習（120分） 参考書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』（北樹出版）の序章・1章を読み、リスクの多様性について理解する。

	④復習（120分） 講義ノートを確認して、4領域に関連する危機事態でこの1年間に発生した事件・事故について調べてノートに整理する。
4	①授業テーマ 「リスクマネジメント」と「リスクコミュニケーション」 ②授業概要 危機管理学について研究するために必要な基礎概念のうち、もっとも重要な概念や理論となるリスクマネジメントとリスクコミュニケーションについて考察します。危機管理において、リスクマネジメントについて危機を事前に管理して予防する側面ととらえ、そのために必要な社会的コミュニケーションの過程をリスクコミュニケーションと位置づけ、防災や減災の観点から理解することを目的とします。担当教員の実務経験に基づいた講義を展開します。（A1、B1、C1、E1、F1、I1） ③予習（120分） 教科書『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』（北樹出版）の2章を読み、リスクコミュニケーションとメディア報道の関係について考察する。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、身の周りに発生している危機（災害や犯罪、テロなど）におけるリスクコミュニケーションの事例と問題点を調べてノートに整理する。
5	①授業テーマ 「クライシスマネジメント」と「クライシスコミュニケーション」 ②授業概要 危機管理において、クライシスマネジメントについて危機が発生したあとの事後対応としてとらえ、そのために必要な社会的コミュニケーションの過程をクライシスコミュニケーションと位置づけながら、事後的な危機管理の観点から理解することを目的とします。担当教員の実務経験に基づいた講義を展開します。（A1、B1、C1、E1、F1、I1） ③予習（120分） 教科書『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』（北樹出版）の3章を読み、クライシスコミュニケーションについて考察する。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、実際に世界で発生した危機がどのように事後対応されたか、クライシスコミュニケーションの事例を調べてノートに整理する。
6	①授業テーマ 「セイフティ」と「セキュリティ」 ②授業概要 危機管理学で重要となる概念に、セイフティとセキュリティがあります。原子力災害などを事例に、セイフティとセキュリティにはどのような概念の違いがあるのか、危機管理学においてなぜこの概念を区別する必要があるのか、具体的に考察します。セイフティの観点と、セキュリティの観点から危機管理学のあり方を理解することを目的とします。担当教員の実務経験に基づいた講義を展開します。（A1、B1、C1、E1、F1、I1） ③予習（120分） 参考書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』（北樹出版）の2章を読む。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、近年発生した社会的危機に関して、何がセイフティの問題に該当し、何がセキュリティの問題に該当するか、事例を調べてノートに整理する。
7	①授業テーマ 災害マネジメント領域： ①自然災害 ②授業概要 災害マネジメント領域で学ぶ、災害対策とはどのような危機事態を管理するもので、どのような対策があるかを考察します。災害マネジメントの中心となる、自然災害対策について検討します。東日本大震災や阪神淡路大震災などを事例として、自然災害対策における災害情報の問題、災害対策基本法などを中心とする災害関連の法制度について理解することを目的とします。担当教員の実務経験に基づいた講義を展開します。（A1、B1、C1、E1、F1、I1） ③予習（120分） 教科書『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』（北樹出版）の4章を読み、東日本大震災における災害マネジメントについて考える。 ④復習（120分） 東日本大震災における災害情報、災害報道について文献や資料を調べて、その問題点や改善すべき方策についてノートに整理する。

8	①授業テーマ 災害マネジメント領域： ②大規模事故 ②授業概要 災害マネジメント領域で学ぶ、大規模事故対策、人為災害対策の事例として、原子力災害について考察します。福島第一原発事故、JCO臨界事故などを中心として、原発事故対策における災害情報の問題、原子力災害対策特別措置法などを中心とする原発事故関連の法制度について理解することを目的とします。担当教員の実務経験に基づいた講義を展開します。(A1、B1、C1、E1、F1、I1) ③予習(120分) 教科書『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』(北樹出版)の5章を読み、福島第一原発事故における災害情報、災害報道について考える。 ④復習(120分) 福島第一原発事故における住民の避難行動や避難生活、風評被害について文献や資料を調べてノートに整理する。
9	①授業テーマ パブリックセキュリティ領域： ①治安・犯罪対策 ②授業概要 パブリックセキュリティ領域が対象とする社会的危機について、特に治安・犯罪対策における危機管理の問題について考察します。国内の相模原大量殺傷事件などの犯罪や、海外の天安門事件のような治安対策など、具体的な事件を事例として、犯罪捜査や司法制度のあり方について、または地域の防犯対策の取り組みなどについて理解することを目的とします。担当教員の実務経験に基づいた講義を展開します。(A1、B1、C1、E1、F1、I1) ③予習(120分) 犯罪捜査に関連する映画・ドラマを視聴する。講義において複数の映画・ドラマを指定し事前に視聴して治安・犯罪問題について考える。 ④復習(120分) 講義ノートを確認して、現在社会問題になっている最近の犯罪事例を調べてノートに整理する。
10	①授業テーマ パブリックセキュリティ領域： ②テロリズム ②授業概要 パブリックセキュリティ領域において、重大な危機事態としてとらえられるテロリズムの問題について考察します。テロリズムとは何か、テロリズムが発生する原因は何か、テロ対策のあり方、テロを未然に防ぐためのインテリジェンスなどについて具体的に紹介します。テロリズムとメディアの問題、テロ対策における「安全・安心vs.自由・人権」の問題などを理論的かつ具体的に理解することを目的とします。担当教員の実務経験に基づいた講義を展開します。(A1、B1、C1、E1、F1、I1) ③予習(120分) 映画『スカイフォール』『アルゴ』『ゼロ・ダーク・サーティ』などの作品を視聴し、テロリズムの問題について考える。 ④復習(120分) 参考書『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』(慶應義塾大学出版会)の1章と5章を読む。
11	①授業テーマ グローバルセキュリティ領域： ①戦争・紛争 ②授業概要 グローバルセキュリティ領域が対象とする国際問題にどのようなものがあるか、それに対処する国際法や国際機関のあり方について、具体的に考察します。安全保障について、国家安全保障、国土安全保障、国際安全保障の観点から概念を整理するとともに、特にイラク戦争やシリア内戦など戦争・紛争の問題を事例としながら、グローバルセキュリティについて具体的に理解することを目的とします。担当教員の実務経験に基づいた講義を展開します。(A1、B1、C1、E1、F1、I1) ③予習(120分) 現在世界で発生している紛争について、新聞記事や雑誌記事から調べる。 ④復習(120分) 戦争や紛争に関連する国際条約にどのようなものがあるか、研究文献やネットから調べてノートにまとめる。
12	①授業テーマ グローバルセキュリティ領域： ②難民問題・環境問題 ②授業概要 グローバルセキュリティ領域が対象とする国際問題には、環境問題や人権問題、難民問題などが含まれます。地球温暖化問題などの環境問題や、シリア内戦がもたらした難

	民問題にはグローバルな取り組みが不可欠です。難民問題や人権問題、環境問題について具体的な事例をもとに、危機管理学の観点から理解することを目的とします。担当教員の実務経験に基づいた講義を展開します。(A1、B1、C1、E1、F1、I1) ③予習(120分) 国際的な取り組みが必要な環境問題にどのようなものがあるか、新聞記事や雑誌記事から調べる。 ④復習(120分) 環境問題、難民問題に関連する研究レポート、報告書を図書館やネットで調べて読み、ノートに整理する。
13	①授業テーマ 情報セキュリティ領域： ①組織の情報流出と情報管理 ②授業概要 情報セキュリティ領域が対象とする社会問題、事件にはどのようなものがあるか、特に政府や自治体、企業など組織における情報流出の問題について具体的に紹介しながら情報管理の対応策について考察します。ここではヒューマンエラーによる情報流出から、ハッキングやマルウェアなどサイバー攻撃の事例まで、幅広い事例をもとに情報セキュリティの問題を理解することを目的とします。担当教員の実務経験に基づいた講義を展開します。(A1、B1、C1、E1、F1、I1) ③予習(120分) ここ1年間の間に発生した情報セキュリティに関連する社会問題、事件について新聞記事や雑誌記事から調べてノートにまとめる。 ④復習(120分) 情報セキュリティに関連する研究レポート、報告書を図書館やネットで調べて読み、ノートに整理する。
14	①授業テーマ 情報セキュリティ領域： ②個人の情報流出と情報管理 ②授業概要 情報セキュリティ領域が対象とする社会問題、事件には、個人の情報管理の問題も含まれます。現代社会では、個人が利用するパソコン、スマートフォンなどからネットを通じて個人情報流出するリスクがあります。個人が行うべき情報管理のあり方について具体的に検討しながら、情報セキュリティについて考察すべき問題を理解することを目的とします。担当教員の実務経験に基づいた講義を展開します。(A1、B1、C1、E1、F1、I1) ③予習(120分) 自分が利用しているパソコン、スマートフォンから個人情報流出するリスク、SNSなどによるコミュニケーションにおいて巻き込まれるトラブル、リスクについて考える。 ④復習(120分) 情報セキュリティに関連する研究レポート、報告書を図書館やネットで調べて読み、ノートに整理する。
15	①授業テーマ 危機管理学概論のまとめ ②授業概要 それまで14回の授業での学びを総括し、危機管理学に関するまとめの考察を行います。また期末レポート試験の内容について詳細に説明します。(A1、B1、C1、E1、F1、I1) ③予習(120分) 講義ノートの全体を読み直す。 ④復習(120分) 危機管理学概論Ⅰの講義ノートを読み返し、学びを振り返りながら、期末レポート試験を作成する。後期の学びや2年次のキャリア選択、領域選択について考える。
関連科目	「危機管理学概論Ⅱ(RMGT 1302)」, 「リスクマネジメント論(RMGT 1303)」, 「リスクコミュニケーション論(RMGT 1304)」, 「インテリジェンス概論(RMGT 1305)」, 「ロジスティクス論(RMGT 2306)」, 「ヒューマンエラー論(RMGT 2307)」
教科書	福田充編(2012)『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』(北樹出版)。
参考書・参考URL	福田充(2022)『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』(平凡社新書)。 福田充(2010)『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』(北樹出版)。 福田充(2010)『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』(慶應義塾大学出版会)。

	福田充（2009）『メディアとテロリズム』（新潮新書）。その他は講義中に適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 火曜日・金曜日の昼休み時間。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントをとることにより研究室で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント25%：パブリックセキュリティ25%：グローバルセキュリティ25%：情報セキュリティ25% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学70%：法学30%

